日本の子どもの詩

三重

日本作文の会編

日本の子どもの詩

三重

日本作文の会 編

岩崎書店

日本作文の会
日本の子どもの詩 24
岩崎書店　昭58
110p　21cm
内容：24　三重
〔分〕911

日本の子どもの詩　24　三重
一九八三年一〇月二五日　初版発行

編　者　日本作文の会
発行者　大川松利
印刷所　株式会社　K・M・S
　　株式会社　金羊社
製本所　小高製本工業株式会社

発行所　岩崎書店
東京都文京区水道一―九―二
電話〔〇三〕八一二―九一三一(代)

©1983 Nippon Sakubun no kai 〔分〕8392〔製〕108039〔出〕0360
—Published by IWASAKI SHOTEN. Tokyo, Japan—

はじめに

各都道府県別につくられた四十七冊のこの本ぜんたいには、一九一八年「赤い鳥」が創刊されてからあとの六〇年間につくられた、日本の子どもの詩のおもなものが、年代順にならべてあります。

これらの詩は、そのときどきによって、児童自由詩、童詩、児童詩、児童生活詩、生活童詩、生活綴方の詩などともよばれ、世界にもまれなものであります。

これらは、ねっしんな先生たちによる創造的な教育のいとなみとしてうまれたものですが、日本の子ども自身がつくりだした芸術（現代の子どもの〝わらべうた〟）としても、大きな意味がありましょう。

わたくしたちは、このことを頭において、念入りにこの本をつくりました。

この一冊は、そのうちの「三重編」であります。どうぞ、ひとつひとつていねいにお読みください。

日本作文の会

もくじ

1918
〜
1945

麦の芽
麦刈り
8 冬の木
きく
水くみ
かげ
9 エンガワ
とんび
海の月
フェルトぞうり
ふろの水くみ
10 雨上がり
はよつり
11 桑つみ
叱られて
12 東京へ行った父
母
一馬
桜
13 れんげ草
14 きり
海女
におい
15 わらうち
桑やけずり
16 干大根
めじろ
桑切り
17 夜間飛行機
父
母
18 水汲鳥
車押し
19 ほたる
人ちがい
光
20 竹の子
いねこき
きずのいたみ
21 雲
早春
22 ばん
飛行機
水

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

23 谷のへり
麦つき
霜焼け
兄の入営
24 父
いもん袋
26 あおぞら
お母さん
かばん
27 ガーベラ
お母さん
母に聞いた話
28 牛
夜の工事場
29 弁当
けんか
30 ふろたき
熊蟬
こもり
31 うなぎ
くちなしの花

1945
〜
1959

32 風力計
かに
33 夏の風
ゆうやけ
34 月
アサヒグラフ
水がきた
35 いねこき
だっこく機
たんぼの水切り
36 台風
37 死人
38 米の不作
ときび
月
39 米
えいが
40 おねえちゃんのまんがよみ
そつぎょうしゃしん
41 おさかな
鉱石ラジオ
42 病気
山
43 かたほりの父
ふな
44 日曜をまつ

45 いのしし追い
46 炭火はみていた
卒業したら

1960
〜
1969

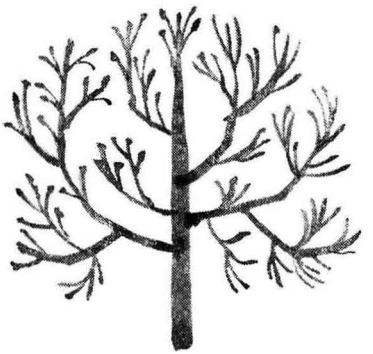
48 せんせい
おとうさん
ヒャシンス
おばあちゃんのしわ
49 ヒャシンスの水さいばい
50 にっこうのあたるせんたく
コマーシャル
きのうのこと
51 おかあさんの手
麦のおどり
52 父の船
地図の上
お七夜
53 名阪高速道路
青山トンネル
54 たまようかん
水の音
55 活気あふれる朝
麦畑
56 ひまわり
ふけいかい
あめ
57 しゅくだい
くも
あり
たなばたさま
58 ゆびさき
自てん車
59 おぼん
雨の校庭
60 子ねこ
十円玉
犬のなきごえ
61 父の目
親父
62 こぶ
せんせい
63 おこっとる
大学
64 月
ふろたき
山のぼり
65 せんだくもの
電気カミソリ

66 工事現場
67 父
68 朝の新聞配達
うでどけい
がっこうごっこ
たいそう
69 ねこ
みの虫
小さなかぜ
70 雪
雪の朝
日の出
71 国道23号線
そろばん
72 雪降りの幻想画
卒業する私達

1970
〜

74 おじいちゃん
おたま
とうさん
つくしんぼう
75 けんか
バンドエード
テレビ
76 あいさつをしなかったら
せんのないしょく
77 もっと自由がほしいんだ
父親さんかん日
78 大工だった父ちゃん
理科の時間
79 ベトナム戦争
ある少年の「顔」
80 大きいくもと小さいくも
ブランコ
81 おかあさんの手はまほうの手
にじをみたこと
チビクロサンボ
82 「あほ」っていやだ
おねえちゃんかってや
83 トカゲ
ほたるがしんだ
84 かいだめ
たことり
85 ぎおんさんの夜
麦かり
86 のらねこ
つばめ
87 いもの工場

88 むしろおり
ほうそう
89 かけっこ
ななつぼし
きんにく
90 さんかん日
きよ水寺
91 小さくなってみたい
しゃっくり
92 夜のけしき
前の校長先生
カトリック老人ホーム
93 ひがん花
94 個室から
95 おかあさんの手
やつあたり
96 もみすり
秋の重み
97 はるをみつけたよ
チューリップのめ
98 おとうさん
石
99 カセットテープレコーダー
もりせんせい
100 ざりがにちゃん
帰り道
101 カーディガン
おかあさんのかた
102 お年玉
あがった
あぶりだし
103 一本松
さか上り
104 冬のそろばん
父の仕事
105 生きる
*
107 あとがき——三重県の児童詩指導の歩み
110 この本の編集をした人たち



1918～1945

（大正７年）　（昭和20年）

ここには

＊日本の子どもの詩がうまれはじめたころ。

＊児童詩とよばれていたものから児童生活詩へ、うつっていくころ。

＊農村にも漁村にも町の中にも、つつましく、かいがいしく働く家族のくらしを書いた詩があったのに、戦争のためにひとびとがわかれわかれになっていくころ。

こんなころのこの県の詩がならんでいる。

冬の木

横田大一郎　小3

話したろ、
木枯(こがらし)の話、
したろ、
冬になったら、
したろ。

桑名郡桑名第三校

きく

浜井二郎　小3

きくは　夜になると
白いゆうれん(い)に　ばける
しょん(小)べ(便)を　すると
しょんべは　ながいので
へびに　ばける。

名気郡日進校(指導)田川貞二

水くみ

池口福生　高1

どこかのおかみさん
すっぽ(まっぱだか)こはだかで
乳をどたり出して
水をくんでいる。
くむひょうしにぶらぶらと
大きい乳が動いている。

多気郡日進校(指導)田川貞二

かげ

山下治助　高1

火のついている。
ろうそくのそばへ、
鉛筆(えんぴつ)を持っていったら、
大きなかげがうつった。
かげは
生きもののように動いている。

多気郡日進校

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

エンガワ

ムラヤマ マユミ 小1

エンガワハ
日ガ　カンカント　テッテ　イル。
ジット　スワッテ　イタラ
ネムタク　ナッタ。

三重師範付属校(指導)今田甚左衛門

とんび

千種佐久子 小3

とんびが
ふろ屋のやねに
とまっていた。
みんなが
わっとさわいだら
きょろきょろと
下をながめた。

三重師範付属校(指導)今田甚左衛門

海の月

青木アヤ 小6

まんまるい月が
海の果てから出はじめた。
波を渡って
足もとまでかげが来た。

三重師範付属校(指導)今田甚左衛門

フェルトぞうり

松本さかい 高1

おねえさんのフェルト、
ないしょではいてみた。
足の裏がいい気持ち。
またそっとしまっておいた。

多気郡丹生校

ふろの水くみ

森岡ひで　小3

ふろの水くみ
ポンプで
ぎっちゃんこ　ぎっちゃんこ。
くんでは
ふろへ見にいき、
くんでは
ふろへ見にいき、
ぎっちゃんこ、ぎっちゃんこ。
また　見にいったら、
もうちっと、もうちっと。
ぎっちゃんこ、ぎっちゃんこ。
もうちっと、もうちっと。

多気郡丹生校

雨上がり

山本　修　小5

からりと晴れた雨上がり
どこかでもずがないた。
土間には
傘がほしてある。

多気郡三養校(指導)高山茂

はよつり

油田史郎　小5

うきが
ぐいぐい動く。
竿をぴゅうとはね上げると、
夕日で
はよの腹が
ぴかっと光った。
若草の上で
はよがおどっている。

多気郡三養校(指導)高山茂

桑つみ

岡安文典　小5

ねえさんが桑つみに行けといった。
桑をつむ時
桑のしるのねばさ　毛虫のかゆさ
みんな思い出していやだ。
蚕の桑くう音に
はっとして出かける。
ねえさんの赤いたすきが
お寺のへいを曲がったばかりだ。

三重女子師範付属校（指導）林義男

叱られて

福田綾子　小5

叱られて
家を出た。
いつか私は物置小屋へ入っていた。
ほほにつたった涙は
私がわるかったと知らせる涙だ。

叱られて
家を出た。
いつか私は物置小屋へ入っていた。
ほほをつたう涙は
父や姉にことわれという涙だ。

わるかったと気がついて
家にはいった。
姉はしょうぜんと立っている。
姉さんごめんして
心の中で言った。
父に叱られていた時の事思い出してはむねが
こみあげてくる。

わるかったと気がついて
家にはいった。
利子ちゃんは私がないて来るのを
じっと見てわけはわからなくても
さみしそうな顔だった。

父に叱られていた時のこと思い出しては、
むねのみゃくが早くなって来る。

三重女子師範付属校(指導)林義男

東京へいった父

黒田量子 小5

父が東京へ出た後は
ラジオの音のしない私のうち、
ねていると
耳がじいっとなっている、
しづかに目をふさいだ、
いつものように
父のまくらもとを通ってみたい。

三重女子師範付属校(指導)林義男

母

太田 実 小4

兄弟げんかをすると
しかられる
あとでなんにもいわれぬ
母のおこりかたは
さびしい

三重女子師範付属校(指導)林義男

一馬

桜井 治 小5

こけとりに
日がくれた、
一馬 きつねがくるぞ、
風で
かれ木が ボキッというたびに
せなかでビクッとする、
一馬 きつねはしんだぞ。

三重女子師範付属校(指導)林義男

桜

大西さつき 小6

一本の桜の木の

新芽の黄みどり、
木の下を通る子の顔、
病気のように
青い色。

多気郡相可校(指導)木村晴蔵

れんげ草

井田秀子　小6

弟が
れんげ田へねて
ころころころげている。
あとを見ると
れんげこけて
道がついた。

多気郡三養校(指導)高山茂

麦の芽

清水イ子　高1

鶏小屋の前の
こぼれた麦から芽が出た。
朝日に
麦の芽のつゆが　きらきら光っている。

度会郡内城田校(指導)久保倉利彦

麦刈り

中森明子　高1

よく実った麦が
青空をつきさすようにのびている。
もう麦刈りだ。
麦刈りになると去年の事を思い出す。
祖母に止められるのもかまわず、
よく光った鎌(かま)をもって
見えない所でかくれて刈っていたら
左の小指の肉をけづってしまった。
その時の痛(いた)さ！
言い知れぬ痛さ！
少しして祖母に見られ
叱(しか)られながらからげてもらったこと……

今年は祖母も大分弱った。
今年こそ、祖母に代わって
傷もしないように　うまく
刈るんだ。
こう思いながら
よくのびた麦をみつめた。

度会郡内城田校(指導)久保倉利彦

きり

山本千代　小6

道そうじにいく
ねえちゃんと、そねちゃん。
煙のような
きりにまきこまれて、
うっすら話しごえがきこえてくる。
深いきりの朝。

多気郡三瀬谷校(指導)高山良次郎

海女(あま)

阪口みつゑ　高1

海女が海の中へ
赤い腰まきと白いシャツ着て
すうーともぐっていった。
うっすり白い小さな足が
ぴくぴく動いている。

度会郡内城田校(指導)久保倉利彦

におい

中辻恵男　小4

においがするとおもったら
いもうとが
りんごをたべていた

二見浦校

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com